

トピック

2025SNAの全体像とその導入に向けた取り組みの状況

内閣府経済社会総合研究所 国民経済計算部 国際基準課 課長補佐

北川 晃平

内閣府経済社会総合研究所 国民経済計算部 国際基準課

本田 真理子

はじめに

2025年3月の国連統計委員会において、国民経済計算（System of National Accounts）の新たな国際基準である2025SNA（System of National Accounts 2025）が採択された。同委員会では、同時に、2025SNA及び国際収支統計マニュアル第7版（BPM7）の実施戦略（Strategy for Implementing 2025 SNA and BPM7）も承認された。本稿では、まず、2025SNAで示されたSNA体系の全体像について説明する。次に、実施戦略を踏まえた2025SNA導入に向けた取り組み状況について概観する。その上で、本年の国連統計委員会における直近の議論の状況を紹介する。

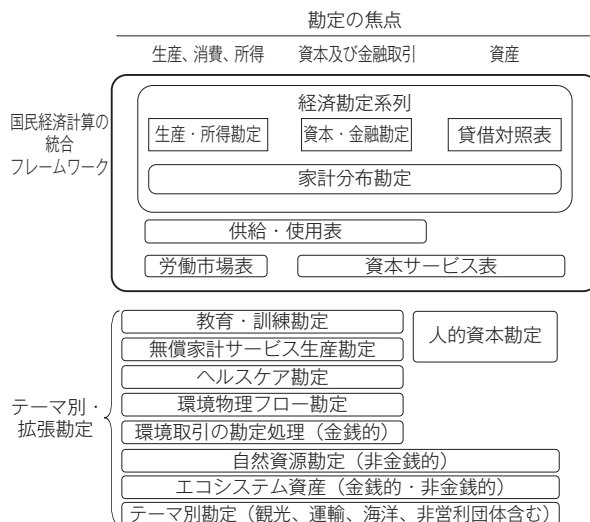
体系の全体像

2025SNAでは、第2章において国民経済計算の全体像が示されており（図1）、そこではまず、「国民経済計算の統合フレームワーク（Integrated framework of National Accounts）」と「テーマ別・拡張勘定（Thematic and extended accounts）」の枠組みが紹介されている。

「国民経済計算の統合フレームワーク」は、「経済勘定系列（Sequence of economic accounts）」と三つの表（「供給・使用表（Supply and use tables）」、「労働市場表（Labour market tables）」及び「資本サービス表（Tables on capital services）」）により構成されている。「経済勘定系列」は、2008SNAと同様に、生産から所得の分配・再分配、消費又は貯蓄までの一連のフローを記録する「生産・所得勘定」、会計期末の貸借対照表の項目に影響を与えるフローを記録する「資本・金融勘定」、会計期間の開始時及び終了時に制度単位又は部門が保有する資産及び負債のストックの価値を示す「貸借対照表」のほか、「家計分布勘定」により構成されている。「供給・使用表」、「労働市場表」及び「資本サービス表」は、2008SNAで言及されていた内容を基礎としつつ、2025SNAでは統合フレームワークの構成要素として位置づけられた。

「テーマ別・拡張勘定」は、標準的な勘定体系を補完し、現代経済における構造変化や新たな政策課題に対応するため整備される勘定群である。2008SNAではサテライト勘定として扱われていたが、2025SNAでは「テーマ別・拡張勘定」として整理され、特にWell-being、持続可能性、デジタル化、グローバル化といった領域との接続を強化し、従来の国民経済計算では十分に反映されていなかった側面を体系的に補う仕組みとして示されている。テーマ別勘定は、統合フレームワークで対象としている範囲（SNA体系における生産境界の定義等）を守りつつ、項目の細分化や組換えにより新たな分析の切り口を提供するものである（例えば、観光勘定等）。一方、拡張勘定は、統合フレームワークに密接に関連するものの、同フレームワークの対象から外れるものも取り込むこと等により、広範な背景について異なる視点や包括的な見方を提供するものである（例えば、家計の無償労働等）。これらは、各国の経済構造や政策課題、データの入手可能性等を踏まえ、整備対象を柔軟に選ぶ仕組みと位置付けられている。

図1 国民経済計算の統合フレームワークとテーマ別・拡張勘定



（備考）System of National Accounts 2025 のFigure2.1に基づき作成。

2025SNA導入に向けた取り組み状況

2025SNAの実施戦略は、国際比較可能性を確保しつつ、2025SNA及びBPM7を各国で計画的に導入するための指針を示した文書である。昨年のESRでも紹介したとおり、この戦略では、実施において重視すべき点や作業の進め方等が示されているほか、各国向けの実施計画モデルも提示されている。各国の事情や優先順位の違いに配慮しつつ、2029～2030年を目標に新基準への移行を進めることで、国際比較可能性等を確保する方向性が示されている。

こうした方針の下、2025年には、2025SNAの実施支援に向けた具体的な取り組みが進められた。具体的には、実施ガイダンスの整備として、IMFがマーケティング資産に関するハンドブックの作成を進めたほか、OECDが自然資源に関する作成ガイドを完成させた。また、クラウドコンピューティング、デジタル仲介プラットフォーム、排出権取引、ファブレス生産、非市場生産者の資本収益等に関するガイダンスの整備も進められている。

あわせて、既存ハンドブック・ガイドの見直しも進められている。2008SNAに関連するハンドブックやガイダンスは約80本存在しており、2025SNAの公表に伴って多くの文献で見直しが必要となっている。2025年には優先順位付けが行われ、SNAハンドブック、四半期推計、価格と数量、政府債務・財政赤字、社会保険・年金制度等の更新が最優先とされた。また、国際機関の資源制約も踏まえ、一部文献の統合・再編の検討や、更新状況を諮問専門家グループ(AEG)が毎年レビューすることも確認された。

さらに、2025SNA後の研究課題についても、2025SNAとBPM7に共通する研究課題として優先順位付けが行われた。具体的には、非市場生産者の資本収益の計算に用いる利子率、ロイヤルティ・プログラム及びギフトカード、排出権取引、マーケティング資産、知的財産資産、交換媒体として設計された見合いの負債を伴わない暗号資産の分類など、2025SNA導入に必要なものが最優先課題として位置づけられた。

本年の国連統計委員会における議論

本年3月の第57回国連統計委員会では、国民経済計算に関する事務局間ワーキンググループ(ISWGNA)の報告書が提出された。同報告書には、上述の2025SNA導入に向けた取り組み状況、実施支援のための推計ガイダンスの準備、2025SNA後の研究課題、各国におけるSNA実施の範囲や適時性に関する更新等が盛り込まれており、実施戦略に沿った取り組みの進捗を確認するものとなっている。

同委員会では、多数の国・機関から発言があり、主として、2025SNAの策定・公表を主導したISWGNA及び諮問専門家グループ(AEG)への謝意、2025SNAの導入に向けた進捗状況の報告、2029～2030年の実施を目標とする実施戦略への支持、ガイドラインやハンドブックの更新、技術支援や有用なツールの整備の必要性等が示された。一方で、一部の国からは、国際比較可能性の確保や各国のリソース制約に関する懸念も示された。

我が国からは、ハンドブックやガイダンスの作成など国際機関の多大な貢献に謝意を表明し、その上で、SNAの本体系に影響を与える主要事項の推計手法について現実的な検討が進められること、また国際会議を通じて各国の試算結果をめぐる活発な議論が継続することを期待する旨発言を行った。

まとめ

本稿で確認したように、2025SNAは統合フレームワークを基礎としつつ、Well-being、持続可能性、デジタル化、グローバル化などに関するテーマ別勘定や拡張勘定も併せて、国民経済計算の包括性と分析可能性を高めるものとなっている。他方、2025SNAの導入に向けては、データ基盤の整備、推計手法の検討、関連統計との整合性確保への対応が求められる。本年の国連統計委員会においても、各国から2025SNA導入への支持が示された一方で、国際比較可能性の確保や各国のリソース制約に関する懸念が指摘され、実施支援のためのガイダンス整備や各国の進捗確認の重要性が改めて認識された。

我が国においても、実施戦略で示された実施時期の目標(2029～2030年)を踏まえ、2025SNAの円滑な導入に向けた準備を着実に進める必要がある。とりわけ、国際比較可能性を維持しつつ、国内の統計リソースの制約の中で優先順位をどう付けるかが大きな論点であり、GDP水準にも影響し得るデータの価値計測・資本化や、非市場生産における資本収益の記録を含め、取り組むべき課題は多岐にわたる。国民経済計算の作成を担う立場として、国際的な議論や支援の動向を踏まえつつ、関係機関との連携を一層強化し、2025SNAの確実な実施と国民経済計算の発展に引き続き貢献していきたい。

参考文献

- United Nations et al, "System of National Accounts 2025: Pre-edit version", 2025.
- Inter-secretariat Working Group on National Accounts, "Strategy for Implementing 2025 SNA and BPM7", Endorsed by the Statistical Commission, 2025.
- 山本暁史「2025SNAの採択と実施戦略」『Economic & Social Research』, 2025年5月, No.48, pp.7-8.
- 斎藤達夫「2025SNAに向けたデータ資本の計測」『Economic & Social Research』, 2025年5月, No.48, pp.5-6.

北川 晃平 (きたがわ こうへい)

本田 真理子 (ほんだ まりこ)